


平成 28 年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	日本赤十字看護大学	職名	准教授	助成 金額	200,000 円
氏名	月野木ルミ				
研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）					
壮年期女性の健診受診行動に、自身の高血圧・内分泌代謝障害・自覚症状が及ぼす影響					
助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>1. 助成期間における、研究目的・研究方法の検討過程、研究成果の公開方法</p> <p>平成 22 年国民生活基礎調査匿名データ B（以下、匿名データ）を用いて、男女別および健診受診別に高血圧・内分泌代謝障害通院と自覚症状との関連を行った。研究の過程で、まず共著者との話し合いで疾患を高血圧通院に絞って検討した方がよいのではないかと結論に至り、高血圧通院者の抱える自覚症状に焦点を当てることにした。次に匿名データ対象者は、健診受診率が高いというデータ上の特性があり健診受診有無での検討は難しいという問題が生じた。高血圧通院者の抱える自覚症状を検討する中で調整因子として利用していたが、論文査読の過程の中で調整因子からも外して検討を行うことにした。</p> <p>本研究成果は、まず日本疫学会学術総会で発表し専門家からの意見交換を行った後、研究目的の明確化および再解析等を経て、最終的に日本公衆衛生学雑誌において論文化することで、高血圧患者および高血圧管理に従事する医療専門職双方において有用な資料として活用できるようにした。</p> <p>2. 研究成果の紹介</p> <p>【目的】匿名データに基づき高血圧通院患者が抱える自覚症状の実態調査を行った。</p> <p>【方法】統計法第 36 条に基づき申請・入手した匿名データを利用した。対象者は 20 歳以上の 10218 名とした（施設入所・入院者、悪性新生物および精神障害通院者除く）。自覚症状と高血圧通院との関連の検討にはロジスティック回帰を用い、結果変数として高血圧通院有無、要因として高血圧に関連すると考えられる主な自覚症状（頭痛、耳鳴り、動悸、肩こり、足の浮腫とだるさ）を投入し、年齢、喫煙状況、日常生活動作障害有無を調整して男女別に検討した後、さらに男女を統合して男女別を調整変数に加えたモデルでも解析を行った。</p> <p>【結果】高血圧通院者数は男性 640 名、女性 740 名であった。高血圧通院と自覚症状との関連を、男女を統合してみると、頭痛は 1.25(95%信頼区間[CI]:0.92-1.69, p=0.153)、動悸は 1.35(95%CI:0.96-1.92, p=0.088)とオッズ比の上昇傾向を認めた。肩こりは 1.55(95%CI:1.29-1.88, p<0.001)、足の浮腫やだるさは 1.39(95%CI:1.04-1.85, p=0.024)と有意なオッズ比の上昇を示した。</p> <p>【結論】高血圧通院者では、頭痛、動悸、足の浮腫とだるさの訴えが認められた。各症状は高血圧に関連する症状と考えられるが、加齢や併存疾患など複合的な要因で生じている可能性にも留意して長期的かつ包括的な高血圧治療管理を行っていく必要がある。</p>					
助成金の使用金額及び使途					
<p>1. 国民生活基礎調査匿名データ 使用申請費用 約 10000 円</p> <p>2. 国民生活基礎調査 解析用 PC 及び周辺機器 約 180000 円</p> <p>3. 日本疫学会学会発表 学会参加費 約 10000 円</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）					
<p>学会発表</p> <p>月野木ルミ, 村上義孝. 高血圧通院者における自覚症状、自覚的健康観、健診受診の特性: 国民生活基礎調査匿名データ. 第 27 回日本疫学会総会 (山梨)</p> <p>論文発表</p> <p>月野木ルミ, 村上義孝. 高血圧通院者が抱える自覚症状の実態調査: 平成 22 年度国民生活基礎調査匿名データ. 日本公衆衛生学雑誌 (印刷中)</p>					